

第4回新川子ども屋内レクリエーション施設の整備に関する検討会 主な意見

日 時:令和4年1月17日(月)15:00~17:00

場 所:県庁4階大会議室

<基本計画書(案)についての主な意見>

- ・5W1H 以外に、どういう人を呼ぶかという点がもう少しあってもよい。本当にチャレンジングなことをやるのであれば、①遠くからでも人を呼べる魅力、②施設に求める人材、の2点を明確化すべき。民間の提案を待つだけでなく県の中で議論をしてまとめた方がよい。
- ・新川地域の類似施設との連携を念頭に置き、どのように子どもたちの力を育てていくかという観点での事業連携を計画に盛り込んでほしい。
- ・施設のコンセプトに自然、大地とあるが、魚津には、富山湾の海も含めて子どもたちにこれらを伝える機能として水族館がある。海や山、川、自然をトータルでしっかり子どもたちにアプローチしていくという意味の連携を計画にもう少し具体的に盛り込んでほしい。
- ・この施設はいつ建つのか。10年後だと新川や県内に住んでいる子どもがどんどん少なくなっているのもっと県外からも人を呼ぶことを考える必要がある。
- ・施設には強い売りがないと駄目。その一つとして、デジタルの活用やICTが必要ではないか。
- ・施設の名前ではなく、例えば「ふわふわドーム」のように「あそこの、あれに行きたい」と子どもが言える売りになるものをしっかり押し出した計画にすべき。
- ・新川にはYKKがあるので、ファスナーを開け閉めして遊べるファスナールームがあってもよい。
- ・全てを整えておくと子どもは何もしない。「あれが足りない」というところがないと、子どもの非認知能力が上がらない。全てを整えるものではないという思いで計画を整えてほしい。
- ・音響効果がよく芸術性の高い新川文化ホールとの連携の観点で、情操教育の一環で例えば子ども施設のBGMにクラシック音楽を流すなど、施設全体を利用者が気持ちよく使えるようにするのも一つの手。
- ・昨今はジェンダーフリーの観点で、トイレに色々な配慮がいる。また、感染防止の観点での換気対策など、これからの新しい時代の価値観や考え方に合わせた施設をお願いしたい。
- ・人口が減る中で想定来館者10万人や関係人口1,000万人を目指すのであれば、県外からの観光も視野に入れ、デジタル技術を活用し観光施策とも一体化した大人も楽しめるコンテンツづくりができると良い。
- ・お母さんたちは、この冬はコロナも拮がって行くところがなく、また今年初めは雪がたくさん降ったこともあり、このような屋内の施設が充実すると大変良いと感じている。
- ・新川文化ホールは、彫刻やステンドグラスなどアートや芸術に触れられる素晴らしい場所。新施設には楽しい遊具に加え、そこにデジタルとアートの要素も打ち出したら良いのではないか。
- ・この施設は単に人を集めるテーマパークでなく子どもが育つプレイパーク。結果として県外からも人が来るのはよいが、観光施設ではない。遊びを通して子どもたちに色々な力が身に付くことが施設のコアになる。
- ・例えば来館者にタグを付け、施設内でどのような動きをするのかというデータを蓄積してセキュリティに活かしたり、子ども同士のインタラクションがどのように生まれ、変わっていくかという研究にも繋げたりと、デジタル技術や先進技術が使えることもあると思う。
- ・子どもたちの幼少期の体験が未来の地域を動かす力になる。まずは新川地域の子どもたちが日々ここへ足を運ぶ魅力的な場所になることと、家族、地域、先生方など周囲がどうサポートしていくかが大切。
- ・①日常的な新川の子どもたちの使い方、②週末の周辺・県内や隣県からの使い方、③夏休み等の長期休みの他県や遠方からの使い方、3つくらいに大きく分けて使われ方のコンセプトを考えてはどうか。
- ・周辺施設との連携で考えられるのは例えば周遊できること。施設間をデジタルで繋ぎ、ここから水族館へ

行ってみよう、ジオパークの様子を見て行こうなどと次の意欲をかきたてるデジタルの仕掛けも可能。

- ・固定的でなく可変的で、手を加える余地を残して子どもの手で完成していく空間。子ども主体でそこに大人が巻き込まれるような、そういった本気で遊べる施設をぜひ考えてほしい。
- ・可変性、流動性、入れ替え可能性のある施設にすることが重要。全国にこの種の施設は多数あるが、その大部分は当初は来館者数が多くても、どんどん減っていき、10年経つとガクッと減る。逆に民間の大規模施設は頻繁に中身を入れ替えるので面白い。この施設も、期間で中身をどんどん入れ替えることができるか。中高生、大学生、ボランティアやNPO、民間企業のアイデアを生かして、例えばあるプロジェクトやプログラムを1か月単位で実施するなど、変更可能な部分を多くしていくことが大事。
- ・近隣施設との連携では、遊びに行きたい時にこの施設の近隣にどれくらい魅力的なものがあるか、周遊できるかがポイント。新しい施設をつくるということではない。例えば、私は富山にいく度に自然の美しさを思う。富山に住む人にとっては雪は迷惑かもしれないが、遠くから来る人には魅力的なものになり得るし、冬の日本海は荒れているが、遠くから安全に見る分にはよい。あるいは美味しいレストランがあれば食べにいく、といったように、まちづくりとの関連の中で近隣との連携を考える方が長続きするのではないかと。

< 全4回の検討会を通しての振り返り・感想・意見 >

- ・施設で消費できる時間に応じてその環境に魅力を感じる。半日消費できれば魅力を感じ、1日だったらもっと感じる。多数の集客をしている施設は1泊2日くらいで見て回ることでできるものが多い。その意味でこの施設はきっちり時間を消費できる施設になりうるし、新川文化ホールと合わせることで1日を消費できる素晴らしい価値を示すことができる。もちろん連携できなければだめで、順番に回って本当にその時間をきっちり消費できるかどうか、消費させるだけの魅力があるかどうか大切。
- ・こどもみらい館は太閤山の自然が近くにあるが、こども施設は新川文化ホールや水族館、滑川にはほたるいかにミュージアムがある。それら施設を、どこから来てどう回るのか、そういうシステムができればよい。
- ・以前の検討会では、デジタル技術を活用し、タグを使って子どもたちの活動量や、どんな世代の子と遊んだか等のデータを収集・蓄積することで、次の遊具をどうするかを考えることができるという話をした。一方で、民間活力を導入するとこの先のスケジュールが少し見えなくなる。これからどういうテクノロジーが開発され、どのように利用されるかは専門家として分かっている部分や考えていることもあるが、テクノロジーの活用は施設の完成時期が具体化しないと見えないという難しさもある。
- ・イメージ図を改めて見ると、宮崎駿さんの理想の保育園のイラストを彷彿とさせる姿に見えてきて、建物自体が遊びの場に近づいていくように思った。施設が完成したら、子どもたち、学生たち、市民が運営に参加し、良い場を作り上げていくような、色々な関わりが生まれるとよい。
- ・5年前に富山県に移住し、その時から富山県は子どもの五感を育てるところだと思い、皆に伝えている。この施設はまさに子どもの五感を育てることができる施設だと強く思った。また、子どもは楽器がとても好きだがなかなか触れる機会がない。施設の中に楽器を叩ける場があるなど音楽とリンクさせることで、ますます新川文化ホールの隣に造る意味がでてくる。
- ・子どもを中心に、この施設が大人も地域社会も巻き込んで、活気溢れる循環を生み出し、そのことで一人一人が幸せを感じられるような、そんな施設になってほしい。そのために、民間の活力はもちろんだが、行政の末永いバックアップもお願いしたい。
- ・子どもは収集が好き。パスポートのようなものがあり、来るたびにスタンプが増えるとか、色々なゲートを通るたびに音が鳴って楽しいとか、ワクワクとともにいろんなアイデアが湧いてくる。
- ・子どもたちの意見を取り入れることも大切。施設での約束や決まりも子どもたちで作ったら良い。
- ・入れ替え可能という話もあった。根本は変わらずとも、時代の変化に応じて少しずつエッセンスを加えなが

ら、子どもたちが大人になり、またお子さんやお孫さんを連れてくるような、いつまでも続く素敵な施設になってほしい。

- ・「本気で遊べる施設」は、大変良いコンセプト。子どもは疲れないと寝ない。外で思い切り遊んだらすぐに寝るが、本気で遊べるところはあまりなく、公園では火を使っては駄目とかボール投げは駄目とか言われる。本気で遊べる場所が新川に一つあったら面白いコンセプトだし、そういう場こそ今求められている。
- ・空調計画や年齢に応じた空間など、冬に遊ぶという視点で考えてほしい。金属製の遊具は冬は冷たい。室内であれば耐候性等もそれほど考慮しなくてよいので、木製のほうが合っていると思う。
- ・建設予定地は②の位置が前提となると、駐車場から遠いのがネック。雪の降った日に子どもを連れて両親や祖父母が歩く距離が長いと、悪天候の日は足が遠のいてしまう可能性がある。
- ・新川文化ホールでは、以前から支援団体が音楽の出前事業をアウトリーチとして実施している。こども施設ができれば、遊びの出前と新川文化ホールの音楽の出前を合わせて、幅の広い、お互いにとっても良いものがつくれるのではないかな。
- ・施設がいつできるのか、子どもたちは本当に楽しみにしている。施設が完成するのにあと3年かかるので100%完成するまで待ってください、というやり方が普通だと思うが、例えば2年で建物の基本的な部分が50~60%くらいできているのであれば、中の遊具などは残しておいてなるべく早めにオープンするという方法も検討の余地はないか。残りの部分は利用者や地域の人たちと一緒に考えていくのもよい。
- ・子どもの遊び場は児童館などもあるが、中高生が参加してくれないことが大きな課題。その施設で遊ばされることに飽きてしまう。中高生や大学生が運営に参加し、遊びの環境を作り出す、あるいは自分達のアイディアに基づくプロジェクトやプログラムを作る側に回ってもらうことができれば、それが彼らの創造性を育て、将来、富山、全国あるいはグローバルに活動していく人たちの意欲を作り出す。また、富山県ならではの地域産業、あるいはイノベーションを育てる場にするためにも、民間企業等が随時参加することも必要。
- ・施設の中身を何度も入れ替えることで子どもにとっての魅力を維持するとともに、県内の様々なアイディアを活かし、試してまた入れ替えることでイノベーションにつながることを願っている。
- ・施設は完成形ではなく、箱を作ったら中身を作っていくのは子ども、お母さんお父さん、おじいちゃんおばあちゃんというような、皆が関わりたくなる空間になるとよい。
- ・今日、非常に混沌とした世界で子どもが孤立している。孤立感、無力感、貧困は課題。それを解決していくような空間、そこに行ったら1人じゃない、そこに行ったら自分のできることがあるというような空間を作ることによって、富山県なり、地域の子どもたちが育っていく場所になってほしい。

<座長まとめ>

- ・これまでの検討会を通して、委員の皆さんの意見がとても前向きで建設的であったと感じる。子どもの施設を私たちが応援して作ろうと、次の世代のためにやるからこそ皆が前向きになれるのだと思う。
- ・この施設に関しては皆が前向きになれるので、それをうまくエネルギーに変え、子どもたちも含めた色々な意見が次に繋がっていくようにしてもらえると、この施設だけでなく地域そのものの可能性が広がっていくのではないかな。